

令和4年度第2回仙台市科学館協議会会議録

日 時 令和4年11月10日(木) 14:30~15:30
場 所 仙台市科学館1階市民の理科室
出席委員 河野裕彦委員, 佐藤美嶺委員, 高田淑子委員, 田中真美委員,
長島康雄委員, 細野たかし委員, 松田佳歩委員(計7名)
欠席委員 磯部裕子委員, 庄子裕委員, 松崎雅威委員
事務局 石川館長, 田中副館長, 久米井主幹兼庶務係長,
青木主任指導主事, 青沼指導主事, 秋山指導主事, 沼尾指導主事
傍聴人 1名

議事要旨

1 開会

2 館長挨拶

3 会長挨拶

- 河野会長が議長となり会議を進行
- 議長より議事録署名人に田中委員を指名

4 報告事項

(1) 令和4年度仙台市科学館特別展開催実績について

- 秋山指導主事から資料1により説明
(質問等)

- 河野委員

一日で最大2,400人ほど来場したらしいが、資料の写真よりも混んでいたのか。

- 秋山指導主事

その日は写真の倍ぐらいいは入っていた。ただ壁面展示をしているためスペースに余裕があり、密といえる状況ではなかった。

(2) 第68回仙台市児童・生徒理科作品展開催実績について

- 沼尾指導主事から資料2により説明
(質問等)

- 高田委員

研究部門は個人研究を対象にしているのか。

- 沼尾指導主事

共同研究も受け付けている。学校によっては科学部としての出品、あとは兄弟で出品しているものもあった。

○高田委員

先日、高校の科学発表会に参加する機会があった、優秀なものは全国大会にもいっているようである。中学校の科学部でも、そのような活動をしていないのだろうか、理科作品展のような機会を是非活用してほしい。

○青木指導主事

中学校の現場では、理科教員が科学だけを受け持って部活が成り立っている学校はあまり多くない。科学部として出品する学校は少ないというのが実情である。

○長島委員

中学校の場合だと、理科作品展で表彰されると読売科学賞の候補になることが多く、それが全国大会に行ったりもしている。過去にも仙台市の理科作品展で入賞した作品が全国大会に行ったことがある。

必ずしも理科作品展が閉じたものになっているわけではないが、新聞社などの活動とうまくリンクしているとはいえない。

○高田委員

上手く繋がっていけば良い。

不登校児童の中には、科学や工作で素晴らしい才能を発揮できる子どもがいる。理科作品展が、不登校児童が自信を持って学校に来るきっかけにも繋がるようなものになればいい。

(3) 仙台市科学館展示リニューアルスケジュール（案）について

○青沼指導主事から説明

(質問等)

特になし。

(4) 大学や高専との連携に関する最近の動きと今後の方向性について

○久米井主幹兼庶務係長から資料4により説明

(質問等)

○佐藤委員

オープンイノベーション推進において、地域の企業とはどういったものか。どういった企業に声をかけていくとか具体的なプランは決まっているか。

○久米井主幹兼庶務係長

具体的にはこれからである。

○佐藤委員

地域企業が科学館から受ける刺激は多いと思う。逆に地域企業が持っている独自技術など紹介していけるよう連携できればよい。

○長島委員

私が科学館に勤めていたとき、海洋研究開発機構と特別展などを開催するなどのつながりを持っていたが、機構から、研究成果を発表するための場所の提供を求められたことがあり、それが突発的だったりするので、そのようなニーズにも対応できるしくみが必要だと思う。

○久米井主幹兼庶務係長

OpenLabでそのようなニーズに対応できるイメージである。

○長島委員

私が科学館に勤めていたとき同じような場の運営を考えたことがあるが、ひとつのつながりを維持していかないと続かない。場の創出が絵に描いた餅にならないように体制を考えていく必要があると思う。人事異動や引継ぎをしっかりと考えていく必要がある。

もうひとつ、展示についてだが、長期にわたって展示するものは基礎的な科学を、最先端の科学は次々と更新されていくため、2、3年で陳腐なものになってしまうことを前提にする必要がある。長期に展示するものは基礎的なものを工夫して展示する必要があるし、最先端の内容は大学や高専の研究成果を2～3年のスパンで更新していくことが必要になる。そうすることで、今よりも素晴らしい科学館を実現できるのではないかと思う。

○石川館長

人が異動すると突然事業が終わってしまうというのは多々ある。このあらたな取組みについて引き継ぎながら次につなげていくというのは非常に重要なことなので、科学館としての人材育成も含めて考えていきたい。

委員の皆様には、ここで紹介した科学館の取組みを是非いろいろな場面で発信していただきたい。

○久米井主幹兼庶務係長

実際、科学館の職員だけでこの事業を維持するのはおそらく無理だと考えている。

外部から学生やNPO団体等の専門人材を集め、組織を立ち上げ、科学館はそれをサポートするといったスキームを考えており、館内の組織もそれに合わせて体制を変えていくことを考えている。

○高田委員

科学コミュニケーターによる人材育成については、理科教員の育成にも利用してみたい。これまで大学で教員育成の活動として、天文台で年に3、4回科学教室を実施しており、これを10数年続けてきている。この事業が続けられたのは、予算があったというところが大きいと考えている。

この大学等との連携事業において、予算はどのようになっているのか。科学館が出すのか、あるいは出展者が負担しているのか。

○久米井主幹兼庶務係長

これまで実施してきている先端技術の展示においてであるが、展示物は大学などの研究機関が製作し、科学館はその設置場所を提供するという枠組みにしている。セッティングについては当然科学館も協力するので、多少経費の負担はあるが、展示装置の製作やメンテナンスは基本的に大学などの研究機関で行っていただいている。

(5) その他
特になし。

5 事務連絡

次回の開催日程については、今回と同様にメールで日程調整させていただく。

6 閉会

令和 4 年 11 月 22 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長

河野 裕彦

仙台市科学館協議会 委員

田中 真美